

女性医師も
出産・育児をしながら
キャリアアップできる
環境が整ってます



小児科には子育て中の女性医師がたくさんいます。私自身も、出産後、育児休暇を経て職場復帰しました。育休や時短勤務等で子育ての時間を大事にすることも、臨床や研究の場でバリバリ働くこともでき、ライフステージに合わせた働き方を実現できます。キャリアを積んでいる女性医師の先輩方が多いのも、励みになります。一緒に働く先生方のあたたかいサポートを得ながら、小児科医として充実した日々を送っています。



金野 友紀
(2010年千葉大学卒業)

高谷 里依子
(2003年宮崎医科大学卒業)

日野 もえ子
(2002年新潟大学卒業)

私は他大学医学部を卒業後、千葉大学小児科に入局しました。入局後、臨床医としてのとても丁寧な教育を受けるとともに、数々のカンファレンスに参加することにより多くの刺激を受けました。その後出産を経ながらも、大学院生活、海外での研究生生活の機会に恵まれました。今も臨床と研究を続けています。千葉大学小児科はたくさんのチャンスを与えてくれる医局です。

大学院のときに出産した時は、自分で研究の時間をやりくりして子育てができました。産後4ヶ月で院内保育所に預けられたのでフルタイムで復職。先輩後輩に助けられ、時には助け合い、実家の両親・ママ友などの助けを借りながら研鑽する毎日です。ロールモデルとなる先輩女性医師からは、家庭と仕事の両立のノウハウを教わることができました。



東京湾、千葉市街を望む “丘の上の病院”です

千葉大学の医学部、薬学部、看護学部がある、
支鼻(いのはな)キャンパスに位置し、緑豊かな環境の中にあります。

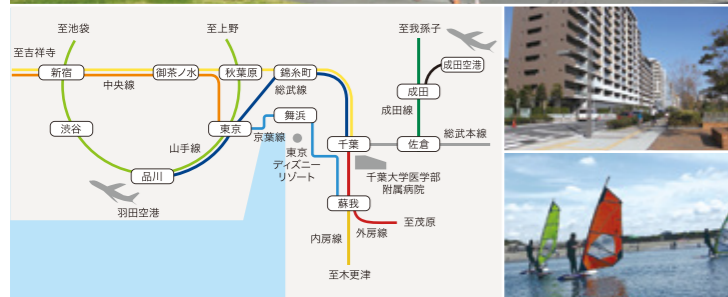
- 医師/歯科医師 980人
(勤務日数4日以下またはパートタイム含む) ※2021年4月1日現在
- 1日平均外来患者数 37,865人
- 新入院患者数 18,046人
- 平均在院日数 12日

2014-2022年度入局した後期研修医の出身大学(順不同)

信州大学、昭和大学、群馬大学、日本大学、東邦大学、東北大学、岩手医科大学、徳島大学、福島県立医科大学、長崎大学、浜松医科大学、杏林大学、山梨大学、高知大学、弘前大学、千葉大学 など

お問い合わせ 千葉大学医学部附属病院 小児科
TEL: 043-226-2144 FAX: 043-226-2145
E-mail: shoni@office.chiba-u.jp

「研修説明パンフレットを見た」とお伝えください。



Chiba University Hospital



Department of Pediatrics



CHIBA UNIVERSITY HOSPITAL

Department of Pediatrics

千葉大学医学部附属病院 小児科専門研修プログラム



あなたのライフに応じた生涯研修の出発点に！

濱田 洋通 小児科 教授

「子ども達の味方です。お子さんと家族が安心して納得できる医療を提供します。」を方針とし、子どもの生きる権利や意思に配慮した領域横断的医療の提供をしています。小児新生児計69床、ICU内にはPICU1床を新設し、各専門家が集結し意見を出し合って難治性の子どもの集学的治療を行っています。専攻医3年間の目標は「子どもの蘇生ABCや痙攣に自信をもって初期対応できる。コモンな病気やケガの診断と標準的治療を実践できる。その後の医師人生を前向きに踏み出せる」です。まず自分で診療する、小児人口75万人の千葉県内8基幹病院を連携施設とし、実践を主体とした研修環境です。目の前の患者を主治医として治療するのはあなたです。各領域の専門医の指導を受けながら責任をもって

患者さんに接すること、我々指導医は全力でサポートします。医師人生は通常40年以上にわたります。生涯学習を提案します。専攻医修了後もご自分のライフプランに応じて継続してキャリアアップできる環境を提供します。目の前の患児の臨床課題をきっかけとした研究、先進医療の開発、小児医療体制への提言、後進のプロフェッショナル教育など幅広い活動を指導、支援します。千葉大小児科オリジナルの取り組みはHPをご覧ください。各専門医が集まって総合的医療を実践しています。新しい治療や予防の開発に取り組み、子ども達の難治性疾患に挑戦してゆきます。あなたも加わってみませんか？



小さな赤ちゃんと世界の未来のために

大曾根 義輝 特任教授 周産母子センター長

当院のNICU/GCU(新生児センター)は2016年春に開設された当院でも比較的新しい部門です。早産児、新生児外科疾患、先天性心疾患、周産期における適応障害(新生児仮死など)の児を周産期母性科や小児外科・小児循環器医師(県こども病院の医師とも協力)とともに出生前からご両親に関わりを持ちながら診療しています。現状では多くの外科疾患と心疾患については県内各所から当院へ集約されており、超早産児の入院数の増加と相まって年々入院児数は増加しています。また、ICUの協力を得ながらCHDF・ECMOなど体外循環による治療も行っています。NICU医師の仕事というハードな印象が強いと思います。もちろん、仕事量やICUとしての緊



張感は大きいのですが、緩やかな集団医療体制を組みながらの2人主治医制で診療しており、夜間・休日は当直医へほぼ委託でき、子育て中の医師で平日日勤のみ勤務でも十分働いていただけますし、日本周産期新生児医学会認定新生児専門医の受験資格も得られます。小児科・新生児科医師としてキャリアアップを期しながら、この世界の未来を背負う新生児の医療を共に行いましょう。

充実した 楽しい小児診療を、 ぜひ一緒に！

奥主 朋子 特任助教 アテンディングドクター

専門は小児血液腫瘍で、病棟を中心に診療に従事しています。プライベートでは2児の母として、育児にも奮闘中です。子どものあらゆる疾患および成長発達に関して幅広く診ることに醍醐味を感じ、小児科医を志しました。他大学の出身ですが、縁あって千葉大小児科に入局し、数多くの専門班がある中で行った研修は大変充実したものでした。医学的に正しい診断を導き出し、適切な治療を行うプロセスを学ぶことはもちろん重要です。それとともに家庭背景や社会的観点から、お子さんや家族が抱える困難について考えることも、ともしれば医学的な問題より比率が上回るくらい重要です、そのためには多職種連携が欠かせません。



当科では、皆そのような想いを共通に持ち、多くの職種の方と関わり、助けられ、よいチームワークで日々の診療を行っています。病態が複雑で重症度の高い患者さんが多く、辛いことも多々ありますが、毎日楽しく仕事ができるのは、そのようなよい雰囲気があるからこそ。千葉大の小児診療の良さを、医学生や研修医の皆さんにお伝えできるよう、そして願わくは同じように小児科医を志す方が増えていくよう、しっかり役目を果たしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

小児科の病棟の壁面には、少しでも明るい気持ちになってもらえるよう、病院公式キャラクター「ピーナツ3きょうだい」(表紙参照)と仲間たちの絵を描いて温かい空間を演出しています。

TRAINING PROGRAM

小児科専門研修プログラム

1～2年目における連携病院は指導医・患者数が多く指導体制がしっかりしているな地域小児科センター病院にローテーションし、3年目以降に小児科医が比較的少ない地域の連携・関連施設で独立して初期対応や転院の判断を含めた地域医療を経験します。大学病院と連携病院、NICU施設を組み合わせた3年間のプログラムです。

千葉大学病院からスタート

	1年目	2年目	3年目
例1	千葉大学病院 (小児外科実習含む)	連携病院 P I C U	NICU 連携・ 関連病院
例2	千葉大学病院 (小児外科実習含む)	P I C U 連携病院	NICU

連携施設からスタート

	1年目	2年目	3年目
例1	連携病院	NICU P I C U	千葉大学病院 (小児外科実習含む) 連携・ 関連病院
例2	連携病院	P I C U NICU	千葉大学病院 (小児外科実習含む)

小児科研修の4つの特徴

1 各専門分野の指導医が集まり
集学的治療を実践します



大学病院では各分野の専門分野の指導医がおり、協力して目の前の患者に集学的治療を行います。連携病院でも専門医がおり、それぞれの視点で助言を行います。同一の患者に対して様々な視点を見聞きし、深みのある後期研修になります。

2 希少疾患・重症疾患も含め
さまざまな症例を経験できる!



小児科学会が提示する、小児科専門医習得に経験の必要な10種の指定疾患リストに含まれる希少疾患、重症疾患をもれなく、無理なく経験できます。千葉県の小児人口は東京(150万人)の半分。小児科医数は約1/7であり、実際に自分の手で多くの子ども達を診ることができます。

3 千葉県には日本の標準的な
小児医療環境があります



東葛地区は小児人口の2/3が集中しており、地域小児科センターも複数あります。一方、面積の3/4を占める千葉以東の房総半島地域には1/3の小児が居住しており、初期診療や救急体制は東葛地区と異なります。両方で経験を積むことで、日本のどこで勤務しても安全な医療を提供する経験を得られます。

4 さまざまな
キャリアプランがあります



専門研修終了後、専門臨床、研究(大学院、留学)、社会人大学院、行政、国際医療支援など様々なキャリアプランがあります。出産前後や育児中の研修支援も行っています。ライフプランに応じた研修を推奨しており、教授はじめ同門の先輩方はみな親切に相談に乗ってくれます。

指導体制が整った
連携病院で
充実した研修を!

連携病院

- ① 総合病院 旭中央病院*
- ② 国保直営総合病院 君津中央病院*
- ③ 東京女子医科大学八千代医療センター**
- ④ 成田赤十字病院
- ⑤ 船橋市立医療センター
- ⑥ 帝京大学ちば医療センター
- ⑦ 千葉ろうさい病院
- ⑧ 国立病院機構下志津病院

関連病院

- ⑨ 千葉市立海浜病院
- ⑩ 国立成育医療研究センター**
- ⑪ 国立病院機構千葉東病院
- ⑫ 東千葉メディカルセンター
- ⑬ 国際医療福祉大学病院

★千葉大学医学部附属病院

*NICU研修施設 **PICU研修施設

千葉大学小児科が提供する研修プログラム

地域医療と専門医療を行ったり来たりしながら、継続的にキャリアを積めます。幅広い選択肢から自分のライフにあったプランを選択し、存分に学んでください！

General pediatrics 1～10年 ・小児科専門医取得	Specific field 10～15年 ・各領域専門医取得、学位研究	General, Education 15年～ ・各施設や大学でリーダーシップ など
---	---	---

初期研修 専攻医プログラム

自分のライフプランに合わせて、自分のペースで！

- ・サブスペシャリティ研修
 - ・大学院
 - ・地域医療
 - ・留学(臨床・研究)
 - ・医療行政
 - ・社会人大学院
 - ・海外医療支援
- ・大学、研修施設
 - ・基幹病院 急性期 回復期 小児病院
 - ・プライマリケア
 - ・行政
 - ・その他

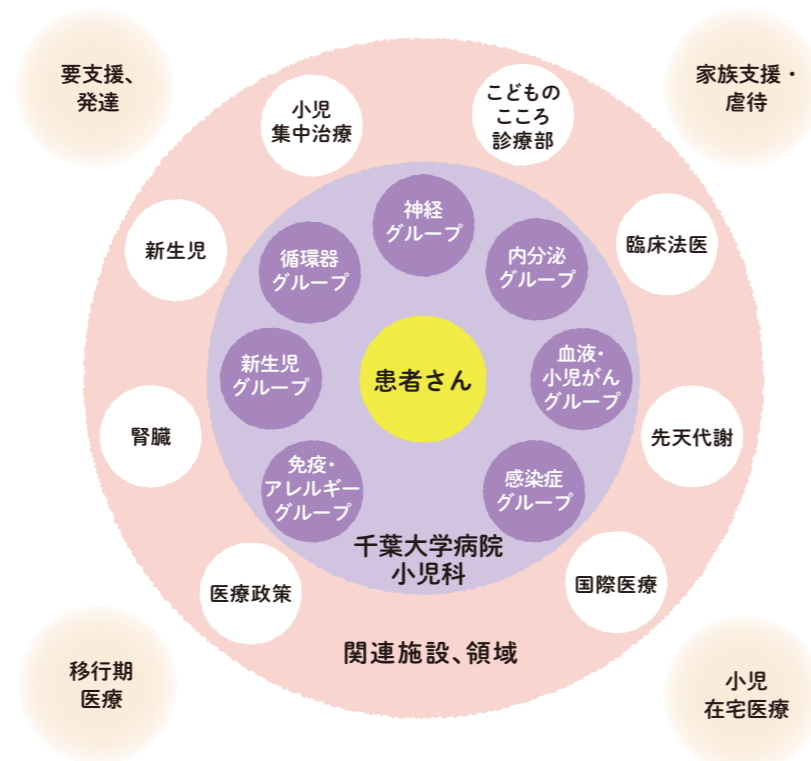
小児科医として自立するまで15～20年かかります。自分のライフプランに合わせて専門研修時期、研究期間を設定、ライフワークバランスを取りながら学べます。育児や介護などをはさんで復帰する医師向けの支援プログラムもあります。行政、社会人大学院、海外医療支援を視野に入れている方も大歓迎です。外部研修期間も籍は置いたまま安心して研修してください。数年後、研修から帰ってきたら、自分の得た成果をぜひ後輩たちに伝えてあげてくださいね！

LIFEとWORKのバランスをとりながら、行ったり来たりしてキャリアを積む「ジャングルジム型」のキャリア形成



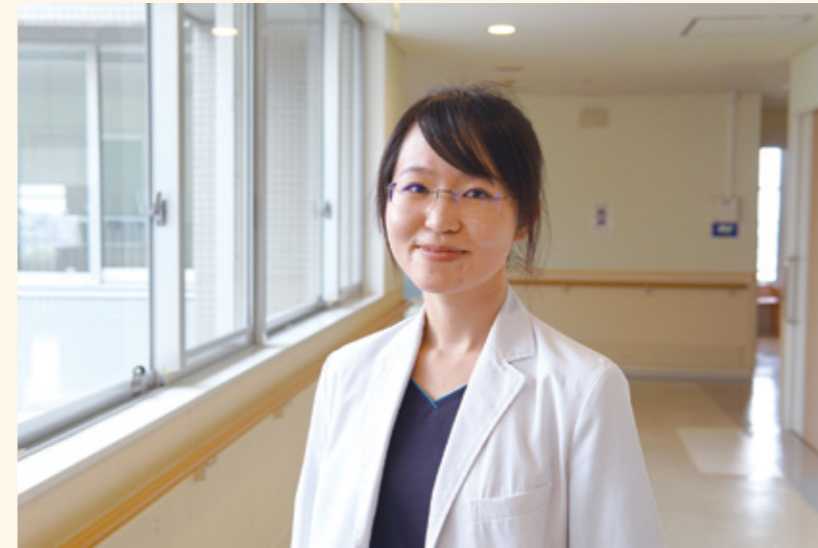
SUBSPECIALTY サブスペシャリティ

小児科は、全身を診る総合内科と各領域専門診療を兼ねた数少ない診療科です。後者を「サブスペシャリティ」といい、専攻医研修の先には、それぞれ興味を持った領域の探求が待っています。小児科専門医取得後、シームレスにサブスペシャリティ研修に入れることも大学プログラムの大きな利点です。また、千葉大学小児科に籍をおいたまま外部で勉強に励めることも魅力のひとつです。サブスペシャリティの中には、ホスピタリストや小児集中治療・小児救急、医療行政、公衆衛生、海外医療支援など広い分野を含みます。



INTERVIEW

専攻医に聞きました！



小児科専攻医1年目

かけがえのない子どもの命に寄り添う

千葉大小児科は、血液・感染、アレルギー・内分泌、神経・循環器、新生児と専門分野ごとに班が作られています。他の班の先生にも気軽に質問しやすい環境で、互いに協力し合って診療を行っています。common diseaseはもちろん、大学病院ならではの稀少疾患や重症患者さんに対しても、Team一丸となって診療に当たっています。診断や治療に難渋する

伊藤 ありさ

千葉大学卒業

ような場合も、各専門のプロフェッショナルである上級医の考え方や判断をリアルタイムに学ぶ事ができ大きな経験になっています。日々子どもたちと接し、かけがえのない子どもの命に寄り添い、赤ちゃんから思春期まで成長する過程にある子どもの人生に携われるので、やりがいを実感しています。また子どもたちだけでなく、ご家族も同様に不安を抱えており、それは日々の診察や接し方ひとつで手助けできることを知りました。診療の中で見る不安な表情の子どもに笑顔が戻り、その笑顔がご両親の笑顔につながり、家族全員に笑顔が戻ると心が癒されると同時に小児科の魅力を実感しています。



小児科専攻医1年目

子どもたちの未来を見据えて

某漫画にもあるとおり、子どもたちには「未来」という無限の可能性が広がっており、その可能性が病気によって閉ざされてしまうことは、とても残念なことです。子どもたちの可能性を未来へつなぐため、病気を治すことが私たちの使命だと考えています。私が小児科医を目指したきっかけは、小学生の時に肺炎で入院したことでした。小児科の魅力はたくさん

青藤 潤

山梨大学卒業

ありますが、様々なサブスペシャリティを持つことができるところもその1つだと思います。小児科医は「子どもたちの総合医」といわれおり、1つの臓器にとらわれず、文字どおり全身を診ます。子どもが好きの方、1つの臓器ではなく全身を診たい方は、ぜひ千葉大学小児科へどうぞ！お待ちしております。